

医療介護従事者がACPについて理解し、意思決定支援を行えるようになる

◎ ACPを理解し、意思決定支援をする医療介護従事者

日々の意思決定支援の中で、本人の最終段階に向けた意思決定支援を行うことができるようになること。また、終末期に向けた意思決定支援として、家族との調整や倫理的な課題にも適切に対処できるようになること。

- ・医療介護従事者へACP、終末期における意思決定支援についての基礎的な事項の啓発（理解促進）
- ・積極的な治療や介護を希望しないこと等、倫理的な課題についても多職種で連携し、対応していくことができる地域の資源の養成（連携体制の強化）
- ・ACPとは話し合いの場を設けることで完結するものではなく、医療・ケアについて考え、価値観を共有するプロセスであることを踏まえ、進行中のケアプランと切れ目なく意思決定支援することができるようになること（支援力の向上）

	研修内容		
	事前聴講動画	リアルタイムオンライン講義	グループワーク
R2	○ACPの基礎知識について法的な視点や倫理的観点等6つのポイントからACPについて紹介	○事例紹介 ・認知症のある方の事例（在宅医の立場から） ・病院内における、医療提供者の方針と本人や家族の意向が合わない場合の事例（病院医師の立場から）	—
R3	○ACPの基礎知識について意思形成支援／意思表明支援／意思実現支援について学びを深める ○新型コロナをはじめとした急性期疾患に備えて	○事例紹介 ・入退院を繰り返しながら自宅で最期まで過ごすことを望む方の事例（訪問看護師の立場から） ・認知症ではあるが住み慣れた自宅で暮らし続けたい方の事例（地域包括支援センターの立場から） ○パネルディスカッション	—
R4	○ACPについて～ACPの始め方、進め方～	○パターンリズムとACP ○病院内でのACP推進（病院医師の立場から） ○地域でのACP推進（自治体の立場から） ○パネルディスカッション	—
R5	○ACPの基礎 R2～R4の事前聴講動画を配信	○事例紹介 ・特別養護老人ホームにおけるACP ・認知症ではあるが住み慣れた自宅で一人暮らしを続けたい方の事例（地域包括支援センターの立場から） ・若年がん患者のACP（病院医師の立場から） ○パネルディスカッション	○事例検討①地域包括支援センターにおけるACP事例 ○事例検討②若年がん患者のACP事例 ○①自身の職場でACPを行うにあたって困ったこと・大変だったこと、成功したこと ②今後自身の職場で実践したいACP推進の取組

★実施方針

令和5年度に実施した①事前聴講動画の配信、②リアルタイムオンライン講義、③グループワークがいずれも好評であったため、令和6年度においても同じメニューで内容をブラッシュアップし実施

① **事前聴講動画の配信** R2～5の事前聴講動画とリアルタイムオンライン講義をACPの基礎としてアーカイブ配信

② リアルタイムオンライン講義

アンケート結果を踏まえ、事例検討×2、コミュニケーション方法の3本立てにしようか。

○ 事例検討案（アンケート結果より）

認知症、がん末期、小児がん、慢性疾患、透析患者

セルフネグレクト、治療拒否、独居や単身世帯、生保、患者家族への寄り添い方、救急搬送時

在宅、施設、病院（急性期、地域包括ケア病棟等）

○ コミュニケーション方法（アンケート結果より）

会話のもっていきかた、会話のきっかけ、意思決定能力に応じた対応方法、コミュニケーションスキル等

③ グループワーク

【グループ分け】 多職種

【テーマ案】 （1）事例検討（コミュニケーション方法含む）
（2）①自身の職場でACPを行うにあたって困ったこと・大変だったこと、成功したこと
②今後自身の職場で実践したいACP推進の取組

【ファシリテーター】 委員の先生方にファシリテーターとして参加していただく

【参加人数】 5名×12グループ＝60名

【実施方法】 対面にて実施

【実施日】 オンライン研修の後、別日（土曜日午後を想定）に設定

<R5実績>

申込者数 : 96名

受講決定者数 : 60名

受講者数 : 44名（受講率73%）